

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月12日  
学校法人別府サレジオ学園  
大分明星幼稚園

## 1、本園の教育目標

ドン・ボスコの教育理念に基づく全人間教育  
神と人に開かれた善良で誠実な子ども：明るい心・きれいな心・しなやかな心

## 2、本年度の重点的に取り組む目標と計画

予防教育法の3本柱である「慈愛（明るいこころ）」を特に意識し、大好きプロジェクトを心にとめ実践していく。

①子どもの一人一人の性格をよく知り、一人一人を大切に。無条件に「あなたのことが大好きだよ」というメッセージを伝える。

年少：「大好きいっぱい遊ぼう」楽しいことを見つけていっぱい遊ぶ。

年中：わくわく「みんな違ってみんないい」友達のいいところ探しをしていく。

年長：「共に～喜び、楽しみ、歩もう～」お互いのありのままを受けいれともに喜んだり楽しんだりして過ごしていく。

②SDGs（緑の世界をつくりだそう／3年目）：環境を守ることは、人を大切にすることに繋がる。

③園内研修：子どもが主体的に遊ぶ環境や教師の援助（慈愛も意識して）について考える。

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの一人一人の性格をよく知り、一人一人を大切に。無条件に「あなたのことが大好きだよ」というメッセージを伝える。	B	集団での活動において教師と子どもの思いに差があることを感じることもあったが、個々に合った関わりを心掛け、見守るだけでなく思いを共感しながら遊びや活動に取り組むことで安心感や意欲への促しとなった。
2	「みどりの世界をつくりだそう」環境を守ることは、人を大切にすること。	C	ゴミの分別や水や食べ物大切さを野菜や生き物を育てる中で伝え命について伝えていった。今年の観劇で、地球環境についてのお話を行っていただき、全園児が学年にそった「天地創造」を表現発表会で振り返ることにより、改めて取り組んでいることと、再確認していく点を振り返ったが、重点度としては習慣化とまではいかなかった。
3	子どもが主体的に遊ぶ環境や教師の援助（慈愛も意識して）について考える。	B	職員研修において「遊び」について進めていきながら、幼稚園にあるものを活かした環境設定の継続の工夫がもっと必要だと感じたが、時間の確保を十分に行うことで、伸び伸びと遊びこめる子どもが増えたと感じる。

評価（A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった）

## 4、総合的な評価結果

評価	理由
B	子どもが教師と共に過ごす喜びを感じていく中で友だちとの関りが増え、何事にも「やってみよう」と挑戦する姿が増え、更に喜びが増し成長に繋がっていく様子が多く見られた。環境構成についてはまだまだ検討が必要だと感じる。そして、異年齢との交流が少なかったようにも感じる

## 5、今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
慈愛（大好きプロジェクト）	異年齢との関わりが持てる環境を教師が意識し、遊びの中から園全体で育てていく意識を高めていく。個別支援が必要な子の環境構成について職員で深めていく。
緑の世界（環境を守ることは、人を大切にすること）	自ら進んでSDGsに取り組めるように学年に合わせた教材などを取り入れながら視覚的に伝えていく。取り組むことでどのような変化が見られているかなどを子どもたちと振り返る時間を持つことで継続に繋がると考える。
子どもが主体的に遊ぶ環境や教師の援助	個々への配慮は継続するとともに、教師が遊びの研究をさまざまな文献や研修等を通してイメージを拡げ、環境構成の工夫を心掛ける。

## 6、学校関係者評価委員会の評価

カトリック幼稚園らしい人としての在り方や、人の心の元になるものを職員が研修などを通して学び、子どもたちの教育に活かされていることを感じられる。保護者の方々が園の方針について理解がなされていることも感じられるため、今後益々園の発展につながるだろう。幼稚園と家庭とが連携しながら共に子どもたちの成長を支えていく事で更に調和がとれた幼稚園になることだろうと感じる。そのためにも、園での取り組み状況を保護者への発信にもう少し力を入れ盛り込むことにより、園での取り組みが家庭での気づきとなり、園と家庭と一丸となって子ども達の成長の糧になっていくと思われる。